



# ぬくもり

[平成28年2月15日発行]

輝く人とまち 人 つながる可児 —「参画」と「協働」による“市民中心のまちづくり”

**祝** 本センター  
設立25周年  
皆さまのおかげです

## 一歩かき上げられる年に!

目標に向かい

磨きを<sup>か</sup>掛け



**努力**

命を<sup>か</sup>懸け(賭け)



**勇気**

<sup>か</sup>翔け上がる!



**飛翔**

最初の一步を踏み出さない! 最初の一段を上がりなさい!

(米国) 公民権運動指導者 マーティン・ルーサー・キング 牧師

〈一歩の中に全てが含まれている〉一は、すでに一と言う広大な世界の全てが含まれている。ゆえに数学では、一は取り扱わないのです。(要旨) (数学者: 岡 潔)

### 目次

- 迎春のかがやき 本センター会長 岡部洋治 ..... 1
- 特集「人権文化の光彩」(標語・300字小説の入賞作品)と「27年度本センター重大ニュース」..... 2~3
  - 平成27年度 標語(第15回)・300字小説(第8回)
  - 〈解説〉・**応募者総数**: 2558人(小学生1301人・中高一般1257人)
  - (標語: 2073点・300字小説: 485点)
  - ・**入賞作品**(37点): 標語30点・300字小説7点
- コーナー..... 4
  - 心のドア ● 可児ぬくもりネットだより ● ぬくもりまゆちゃん® ● 啓発のひかり

### 【国連】

- ① 難民の地位条約・採択 (65周年: 1951.7.28)
- ② 人種差別撤廃条約の日本施行 (20周年: 1996.1.14)
- ③ 障がい者の権利条約・採択 (10周年: 2006.12.13)

### 今年の人権・ホットメモリー

### 【国内】

- ① 高齢者の居住の安定確保法 (15周年: 2001.8.5)
- ② 高齢者虐待防止法 (10周年: 2006.4.1)
- ③ 障がい者自立支援法 (10周年: 2006.4.1)
- ④ パリアフリー法 (10周年: 2006.12.20)

### 迎春のかがやき

まっすぐの向かい合いを 本センター会長 岡部洋治

新春を健やかにお迎えのことと存じます。多くの課題が浮き彫りになってきております。高齢社会への対応は急務です。お互いに永い人生において貢献され今があります。持ちつ持たれつ、お互いに健勝でありたいものです。

他人を思い、まっすぐ、向かい合いの心豊かな対話ができるまちに成るよう努めてまいります。

本センター設立25周年の佳節の時、皆様のご支援・ご協力をお願い申し上げます。

発行

可児市人権啓発センター(可児市総合会館分室内)  
〒509-0203 可児市下恵土5166-1 TEL/FAX 0574(63)7990

ホームページ

可児ぬくもりネット

検索

アドレス <http://www.kani-nukumorinet.jp/>

# 人権文化の光彩 平成二十七年

## 人権啓発入賞(標語)

第15回

(選考・関係者とは機関の代表による)

2,073作品  
より選考

### 【最優秀賞】

○ありがとう たった五文字で

幸せに

和田帆乃華(中学校二年生)

### 【優秀賞】

○考えて 自分がされて

いやなこと

野村 涼(小学校五年生)

○気づいてね 心傷つく

その言葉

安藤 倫子(小学校六年生)

○一言で 笑顔が増える

ありがとう

松前 芽依(中学校三年生)

○思いやり してもされても

あたたかい

林 亮哉(中学校一年生)

○いじめ受け 一人のためずに

打ちあけよう

三宅なつ美(中学校一年生)

### 【入選】

ネットでの 人の悪口 消えないよ

仙田麻妃宮(小学校六年生)

見えていますか相手の心

聴いていますか相手の声

川邊みらい(中学校三年生)

あなたにもらった思いやり

次は私がだれかのために

杉山 有奈(中学校一年生)

いじめは止めよう 勇気をもとう

見て見ぬふりも いじめだよ

小川 紗季(小学校五年生)

ごめんねとすなおにいえたら

すてきな

長瀬 礼愛(小学校六年生)

その一歩 勇気をもって踏み出せば

きつとなにかが変わるはず

島津 颯太(中学校一年生)

「ごめんね」は 君の勇気の証だよ

伊藤 舞花(中学校一年生)

その言葉 送信前に 見直して

今泉 奏恵(中学校一年生)

見ぬふりで 通り過ぎずに 声かけて

森口ゆう子(一般)

短所より 長所をたくさん 見つけよう

柴田 晏里(小学校六年生)

「ダメだよ」は いじめを防ぐ 合言葉

奥田 梨央(小学校六年生)

君の手は あのこをすくえる

希望の手

磯部 美枝(小学校六年生)

あいさつは 人に対する 思いやり

西田 将(中学校一年生)

失敗を 許す心と あやまる心

横井 将吾(小学校六年生)

それぞれの こせいがあるから

みんないい

佐伯拳四郎(小学校六年生)

つたわるよ つないだ手から

その気持ち

樋口 夕花(小学校六年生)

いじめはね 見ているあなたも

いじめてる

島尻 実奈(小学校六年生)

「大丈夫？」 心のきずに

ばんそうこう

薄 健真(小学校六年生)

ここおいで 一人じゃないよ

みんないる

野村 麻朱(小学校四年生)

ありがとう やっぱりうれしい

決めゼリふ

河村奈々加(中学校二年生)

個性はね 一人一人違うもの

胸を張って生きようよ

横山 祥子(中学校一年生)

うそつくと 悲しい気持ち

増えてくよ

河井 鉄騎(小学校六年生)

みんなだね ニコニコあひさつ

ひびき合う

小栗 美香(小学校五年生)

いじわるは 心と体が かなしいよ

安藤 弓琴(小学校六年生)

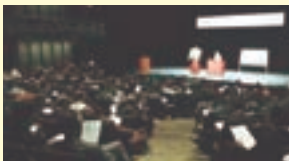


## (27年度) 三大ニュース (実績)



### 12/4 人権講演会

- ・テーマ：「ハラスメントについて」
- ・講師：松波克英弁護士
- ・会場：アーラ小劇場 (参加者 214名)
- ・対象：市民・職員・商工業者



### 年間 学校への人権支援

- ・人権本巡回制度(7周年) - 子ども・教師用各約30冊
- ・標語(15周年)、300字小説(8周年)の募集 2558点の応募有り(過去最多)
- ・子どもぬくもり教室(4周年)
- ・人権しおり(7周年)
- ・(教師)人権講話(4回/年)



### 11/10 「道徳勉強会」 = 「提言書」「報告書」の提出

- 〈概要〉
- 小・中学校の道徳教育の教科化が、小学校：H30年4月、中学校：H31年4月から実施されることに呼応して、人権の要である道徳を学び合った。その結果を提言書と報告書の2冊にまとめ、富田市長、竜橋教育長に提出した。

- ・勉強期間：H26.7.24～H27.10.23
- ・研鑽人員：19名(本センター関係者)
- ・回数：延べ13回



# 人権啓発入賞

## 【3000字小説】

第8回

485作品  
より選考

〔選考・関係者とは機関の代表による〕

### 【最優秀賞】

街角の人（中学校一年生）

大きな足音と音程のはずれた歌声が聞こえてきた。兄が帰ってきた。今日も超ご機嫌だ。

兄には障がいがある。でも支援学校には一人でバスに乗って通う。バス停までの道は交通ルールをちゃんと守り、横断歩道は手を挙げて渡る。健常者と何も変わらない。ただ、歩きながら持ち物を落としてきてしまうのが難点だ。ハンカチはいつものこと、最近では眼鏡を落としてきた。ひろった僕はびつくりした。「眼鏡がなくて見えたのかなあ。」

だからうちのポストには兄の持ち物がよく届く。バスのダイヤが変わると、知らせてくれる人がいる。心優しい周りの人たちに助けられて、今日も兄は鼻歌で元気に歩いている。そして兄も僕たちをいやしてくれている。

### 【優秀賞】

竹田 楓（中学校一年生）

私は、あの子のことが苦手だ。いつもクラスのすみにいるような存在で、話かけてもすぐにどこかへ行ってしまう。その右手には、いつもぶ厚い本がにぎられていた。何日かたったある日塾の帰りにその子を見かけた。やっぱり右手には本。

でも左手は優しく小さな女の子の手をにぎっていた。次の日もその子は小さな女の子といっしょにいた。顔までは見えなかったけど、何となくその子に似ていた。「お姉ちゃん。」と女の子は言った。あの子の妹か。

次の日「あの。」と声をかけてみた。すると、「昨日、会ったよね。その前も。」と返ってきた。「うん。妹、似てるね。」と私は言った。するとその子は笑顔でうなずいた。初めて見る笑顔。少し勇気を出せば、だれでも友達になれるんだ。

### 【優秀賞】

匿名（中学校三年生）

「なんで僕と関わるんだよ、二度としゃべりかけるな！」

その言葉をきくと、彼は悲しそうに笑って歩いていった。全く彼が話しかけるから僕は、変な目で見られる。「あいつ、障がい者と仲良いんだって。」みんながヒソヒソとそう言っている気がした。

イライラしながら部屋を片づけていると、写真が出てきた。幼稚園のときの写真で、彼と写っていた。（「すごい笑顔だ。」）

昔はよく笑っていたけれど、最近の彼はどうだっただろうか。さっきのあの笑顔を思い出した。自分だってあんなこと言われたら傷つくだろう。あれは完璧な差別だ。

僕は明日彼に謝ろうと思った。

### 【入選】

稲毛 彩乃（中学校三年生）

「これってどうやって解くの？」友達に聞かれた。テスト勉強だろう。こんな簡単な問題も解けないなんて。わかるのに。

「わからない」と答えた。いちいち教えるのがめんどくさい。

ある日数学の授業を受けていたら珍しく解からない所があった。何度聞いても理解できなかった。いつも人を見下していたが、わからないことがこんなに不安なことだとは思わなかった。私に解き方を聞いてきた子もこんな気持ちだったんだらうか。

次の日、また友達が解き方を聞いてきた。今はこの前の私とは違う。解けるまで教えてあげた。言われた一言であたたくなくなった。「ありがと。」

### 【入選】

安藤 玲奈（小学校五年生）

ある町にカレー屋がありました。カレー屋は、きらわれ者のトマトをどう使うかなやんでいました。トマトはきらわれ者で友達は人参だけでした。特にお肉はいばり者でみんなお肉の指示にしたがっていました。お肉は、

「きみは、まずい。だから来るな。」といひみんなも、そして人参もそう言いました。一人ほつちなトマトがなきそうな時、小さなタマネギが、

「トマトも入れてみようよ！」と言いました。するとみんなが賛成し、しぶしぶお肉も賛成しました。そして、トマトを入れたトマトカレーが出来ました。あまりのおいしさに町の人は大喜び。そしてカレー屋は、町一番のカレー屋になりました。

### 【入選】

森藤 みく（小学校六年生）

僕のクラスには、生まれつき耳が聞こえない有垂ちゃんがいる。

みんなは有垂ちゃんを仲間に入れたい。「有垂って障がい者だよ。近付きたくないよね。」

有垂ちゃんには聞こえない。聞こえないからいい訳じゃない。僕は手話を勉強して、有垂ちゃんに話しかけた。間が空いた。不安がいつきに押し寄せた。そして僕は初めて見た、有垂ちゃんの笑顔を。僕はその笑顔をたくさん見たいと思った。僕はゆつくり口パクで、「今日から、友達だよ。」と言った。有垂ちゃんはうなずいてくれた。

有垂ちゃんに聞こえなくても僕には聞こえる。僕が守る。もう、絶対に一人にしない。

### 【入選】

小林 愛（小学校六年生）

朝のバスの中。大勢の人で混雑していた。私は母とでかけるためにバスに乗っていた。しばらくして、バス停にとまると年輩いたおばあさんと男の人が入ってきた。男の人はおばあさんの歩くのがおそいことにイライラしている。「おせえよ。」男の人は大声でさげびバスの中全体にひびきわたった。そして、おばあさんをつきとばした。しかし、だれもが見て見ぬふりをしている。私は助けたいけど勇気がない。でも助けなきゃと思う瞬間席を立ち、「やめてあげてください。」とさげびおばあさんに手を貸してあげた。おばあさんは、「ありがとね。」とうれしそうに言ってくれた。ドキドキしたけど勇気を出してよかった。

心のドア  
まこと  
〜真のことは?〜



[取材記事です]

## ある青年の行動に拍手!

★このお話は、小雪の舞う日の、本屋さんの入り口で起こりました。店には、普段より多くのお客がいて、レジで接客中の店員一人がいたそうです。

突然入り口のガラスドア付近で「ドーン」と大きな音がしました。そこには、一人の老人が、身動きしない状態で倒れて、松葉杖が転がっていました。杖が滑って転んだのです。店頭近くのお客は、唖然と立ちすくんでいました。

その時です! 茶髪で耳にピアスをはめた一人の青年が素早く駆け寄り、頭から血を流していた老人を抱きかかえ声をかけていました。また、そばの友人に、119番を指示しました。

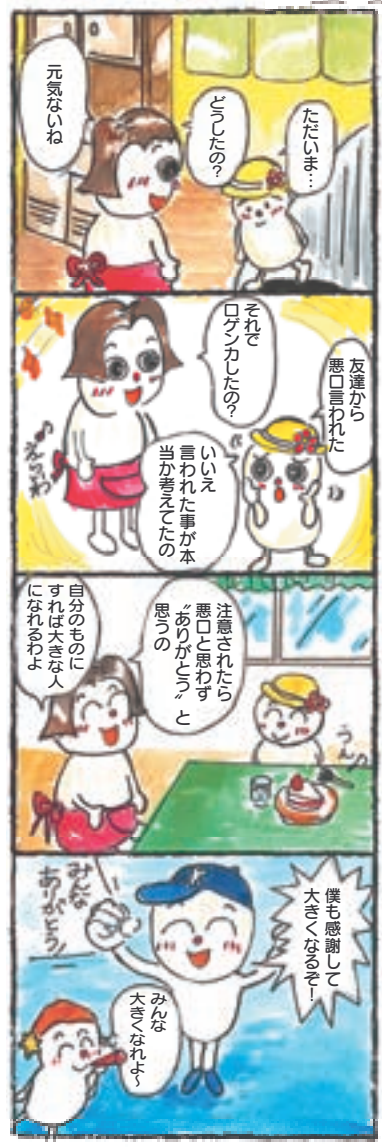
やがて遠くから救急車のサイレンが聞こえてきました。それを聞いて安堵した青年は、老人を店員に任せ、誰も告げずに車で、友人と帰っていきました。その後ろ姿に店員は最敬礼をして、数人の客からは有難つこの声がありました。

実は、彼は、生まれながら天涯孤独で、祖父と2人暮らしでしたが、その祖父が一ヶ月前に亡くなり、何一つ祖父を安心させることができなかったことを悔やんでいました。

店頭付近にいた彼が、店に近づくと老人を自分の祖父と重ね合わせて眺めていたに違いありません。祖父も同じように片足を悪くしていたから。

## まゆちゃん 20

〈何が起きても自分のものに〉  
作: 多々 / 画: miho



(本作品は、全て本職員でつくられています)

## 心の響き 可児ぬくもりネットだより

今週のビタミンから

(本センターホームページ)

### 「一」 という概念の大切さ

今週のビタミン 発信日: 2015年2月2日編

今年も始まったかと思っていたら、もう1月が過ぎ、2月に入っている。「光陰矢の如し」と言われることが、身にしみてわかる。

4月からの新年度の活動に思いを馳せる。組織は、「斤の一年」でなく「長の一念」で決まるというからだ。組織が何かをしてくれるのではない。そこに居る人が為すのであるからだ。ゆえに、その長の決意が人の意欲となって跳ね返ってくる。

今、ここに「人間の建設」という文庫本がある。文化功労章受賞の2人の対談集である。一人は数学者の岡潔であり、もう一人は、近代批評家の小林秀雄である。岡は、「数学という学問は、一というものを扱わない。一という概念は、人間の一生の中で赤ん坊の生後18か月の体験に似ていて、一人で立ち上ろうとすると全身の400程の筋肉が統一的に動くのと同じように、つまり一の中に全てが含まれているからである。その中でいろいろなことを考えていくわけで、一という広大な世界があるわけです」(一部要言)と言っている。

長い生涯を捉えて言っているが、年々の節目の一にも、このことが言えるのである。「一年の計は元日にあり」と言われる所以である。

またこのように言ってもいい。「赤ん坊は、お母さんに抱かれて、お母さんの顔を見て笑っている。このころは、自分や他人の別はなく、母親は他人で、抱かれているのは別人だと思っていながら、親子の情というものは、人のもっとも先に芽生える感情であらう」と言う。組織も、長の意識力で、そこに係る人が個々に力を発揮して、組織を作り上げていくものである。

「自他と時間の2つの観念がない状態の時、どんな平和な安堵感も生まれる。それは、赤ん坊が、お母さんに抱かれている時の情緒である」と2人の対談で言っていた。

ともかく、人の向上は、積み重ねた意欲の連続性の中にあり、その発端は、瞬時のポジティブの熱情というところかと思う。

### 「啓発のひかり」

★本年は、本センター設立25周年となります。

★県下3施設の一つである本センターの設立の経緯の中に設立の精神があります。それは、「はぐくもう思いやりの心」です。

★人権は、「人間が人間らしく幸せに生きていくための権利」です。人間らしいとは、相手の多様性を思いやる事です。人それぞれ違うもの、一人として全く同じ人はいないのです。その人でなくてはならない魅力があり、役割をもっています。

★互いの個性を信じて、個性を喜び、讃え合いながら、個性を生かし合うことが大事であり、全ての才能など持ち合わせせていないゆえに、互いに謙虚に補い合う事こそ大切であると思えます。

★今年も、さらに心豊かなまちとなりますよう活動してまいりますので、ご指導ご鞭撻を願います。

(編集者: 川手靖徳)